

南海電鉄が太陽光発電事業に参入し ボートレース住之江で発電を開始します

南海電鉄（本社：大阪市浪速区／社長：亙 信二）では、中期経営計画「凜進130計画」において「新たな事業領域への進出」を基本方針の1つに掲げ、様々な取り組みを進めています。また、環境重視企業として、様々な環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

その一環として、環境にやさしい再生可能エネルギーの普及・拡大を目的に平成24年7月1日から開始された「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を利用した太陽光発電事業の検討を進めてまいりました。

そしてこのたび、事業性があり、環境にやさしくかつ防災拠点としての機能向上にも資するとの観点から、当社グループの住之江興業株式会社（本社：大阪市住之江区／社長：山部 茂）が施設を所有しているボートレース住之江（大阪市住之江区）での事業化を決定いたしました。

南海電鉄が発電事業者となり、太陽光発電システムによって発電した電力を、20年間にわたり全量を固定価格で電力会社に売却します。

詳細は別紙のとおりです。



ボートレース住之江（スタンドの屋根に太陽光発電パネルを設置予定）

(別紙)

太陽光発電事業の概要

1. スキーム

南海電鉄が発電事業者となり、太陽光発電システムによって発電した電力を、20年間にわたり全量を固定価格で電力会社に売却します。

2. スケジュール

工事開始 平成25年4月

発電開始 平成25年秋

3. 事業地

ボートレース住之江（大阪市住之江区泉一丁目1番71号）

スタンドの屋根に太陽光発電パネルを約2,500枚設置します。

4. 設備概要

設置面積 7,100㎡

発電能力 約500kw

年間発電量 535千kwh（一般家庭約150世帯分に相当）

(参考)

本事業とは別に、和歌山県東牟婁郡串本町に所有する「南海いずも台住宅地」の一部を、太陽光発電施設を運営する三井物産株式会社に賃貸し、発電事業に活用しています。

以上